

「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和5年4月14日（金） NO2 文責 きした 木下 ふみあき 文秋

人に人格 犬に犬格

私は県庁に出向して仕事をした時期があり、ちょうどその時、鳥インフルエンザが大流行しました。県庁各課から職員が日替わりに鳥インフルエンザの作業に借りだされ、私も県内のある場所に出向きいわゆる「殺処分」の作業に従事したことがあります。口蹄疫の時も同じ経験をしましたが、その時はさすがに殺処分ではなく、その後の清掃・消毒作業を行いました。鳥インフルエンザの殺処分は、鶏舎にいる何千羽の鳥を、見たこともないような大きなバケツに入れて、ガスを注入するという作業です。鳥はバケツに入れようとする、当然バタバタと暴れて嫌がるのですが、不思議とそれを繰り返していると、暴れない集団に出くわすことがあります。それはただの偶然かもしれませんが、もしかしたら、バケツに入れられてガスを注入される仲間を見ていて、諦めているのかもしれないと思うことがありました。この暴れない集団に出くわすと、逆に胸を締め付けられ、それは今でも忘れることができない経験です。「人に人格 犬に犬格」とは宮日新聞のくろしおに書かれていた言葉で、文字どおり犬にも性格があるのだから尊重すべきという話なのですが、生き物すべてに命があり、それを粗末にしてはならないということです。話は変わって、年度初めにある生徒が決意表明の作文の中で「うざい、きもい、むかつく、消えろ、死ね」というチクチクコトバをやめまじょうと話をしました。実に素晴らしい意見発表でした。これらの言葉は超マイナスの言葉で人をダメにするものです。940名の生徒がいて、のんびりした人やせっかちな人、物静かな人やにぎやかな人がいるのは当然です。それを認め合い受け入れる努力をすることが、相手の人格を否定しないことにつながり、自分の人間性を成長させることにもなります。入学式が終わってようやく4日間。2、3年生は新しいクラスになって1週間です。皆さんスタートは順調ですか？仲の良かった友だちと一緒にいられなくて落ち込んでいる人がいるかもしれませんが、長いスパンで考えると新しい出会いがあったわけだし、仲の良い友達と同じ学校にいますから心配することはありません。学校は勉強だけをする所ではなく、人として成長をする場でもあります。多様な人格に触れて、互いを認め合い尊重することで学校は豊かな学びの場となります。この一年が生徒にとって素晴らしい学びの年となることを願っています。